

○家庭科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和2年度授業改善プラン 入新井第一小学校）

*元年度の改善プランの検証

調理では、包丁の使い方、ガスコンロの使い方、など、基礎・基本的な知識・技能を身に付けることができた。ただ、一部、包丁を使うときに猫の手をしない児童がいる。導入で調理実習の際の役割分担をすることで、自分の担当する仕事を責任をもって行ったり、担当する仕事ではなくても自らできることを進んで考えて行ったりできた。また、調理実習を通して食のよさに気付き、家で同じメニューを作ったり、苦手な食べ物を食べられるようになった児童もいた。

裁縫では、苦手な児童も、最後まであきらめずに取り組むことができた。玉止め・玉結び、なみ縫い、ボタン付けなどの基礎・基本的な知識・技能を、身に付けることができた。ただ、児童によって個人差があり、難なくスムーズにできる児童もいれば、一つの作業にとっても時間がかかる児童もいる。2学期以降の学習で繰り返し学習することで、確実に身に付けられるようにしたい。

「やってみよう家庭の仕事」「わたしの生活時間」「暑い季節を快適に」などの小単元でも、単元の学習の中で、自らの生活を振り返ったり、実習や実験を通して基礎・基本的な知識・技能の学習をすることができた。ただ、調理や裁縫の学習に比べて、学習したことを家庭で実践した児童が少なかった。調理や裁縫に比べて児童の関心は低くなってしまいう学習でも、児童がより「楽しい」と思えるような指導方法を工夫し、家庭での実践の意欲付けを行っていきたい。また、今後も、学習全体を通して、自分や家族の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した生活が工夫し、実践できるように、指導を続けることが必要と考える。

*2年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案
知識及び技能	五年 ・裁縫道具の名称や使い方について理解ができた。 ・調理実習ができていないので用具の扱い方、ゆでる調理の行い方はまだ学習できていない。	・テストなどの形式で知識・理解を問われると、正確に答えられない児童がいる。	・授業の中で繰り返し用語を使ったり、実演だけではなく、教科書も使って裁縫のやり方を指導していく。今後の状況で調理実習ができない場合は、動画等を使って調理の要点をおさえていく。
	六年 ・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的なことを理解している。 ・それに係る技能が身に付いていない。	・ミシンの使い方などが理解できていない。	・制作物を通してミシンを使う機会を増やす。
思考力、判断力、表現力等	五年 ・裁縫を初めて行う学習が多く、意欲をもって取り組むことができた。	・忘れ物をする児童がいる。	・授業内、教室掲示、前日の持ち物確認を引き続き行うとともに、自分の用具で学習に参加することの大切さや、5年生としての自覚を促す。 ・自分で調べたり、考えたりする学習の場面では、時間をしっかり取ってワークシートに自分の考えを記入させ、ペアや少人数のグループで考えを交流しあい、お互いの良さに気づきあう場面を作る。
	六年 ・日常生活の中から問題を見いだして課題を設定している。 ・様々な解決方法を考え、実践を評価、改善し、考えたことを表現できない。	・頭で考えていることを、授業中に発表したり、友達に説明したりできない。	・まずワークシートに自分の考えを整理する時間をとり、その後表現できるようにする。
学びに向かう力、人間性等	五年 ・玉結び、玉どめ、なみ縫いができる。 ・どうしたらよりよく行えるかということを考えながら、工夫して、片づけ実習をすることができる。	・縫うのに時間がかかってしまったり、形がいびつになってしまったりする児童がいる。	・調理はこのまま実習ができない可能性が多いので動画を見たりなど、1年間の中で工夫して指導していく。 ・視聴覚教材を使って提示したりわかりやすく声掛けしたりするなど、児童が綺麗に縫えるような指導をしていく。
	六年 ・家庭生活を大切にできる心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考えている。 ・家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度が養われていない。	・家族の一員としての意識が低い児童もいる。	・授業中に学んだことを、家庭でも実践する課題をつくり、それを評価できるようにする。